

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成14年9月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成14年8月分(7月29日~9月1日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	-	0.00		12	麻疹	12	0.03	0.09	↓
2	咽頭結膜熱	124	0.33	0.38	↗	13	流行性耳下腺炎	445	1.19	0.93	↗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	149	0.40	-	↓	14	急性出血性結膜炎	4	0.04	0.06	
4	感染性胃腸炎	909	2.42	1.57	↘	15	流行性角結膜炎	136	1.36	1.44	↗
5	水痘	205	0.55	0.53	↓	16	急性脳炎	2	0.02	-	
6	手足口病	684	1.82	0.98	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.03	
7	伝染性紅斑	22	0.06	0.17	↓	18	無菌性髄膜炎	55	0.52	1.50	↓
8	突発性発疹	388	1.03	0.82	↗	19	マイコプラズマ肺炎	27	0.26	-	↗
9	百日咳	6	0.02	0.03		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	1	0.00	0.05		21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	302	0.81	1.48	↓	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp/>」に掲載されています。

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	66	2.44	2.10	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	111	5.29	-	↘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	14	0.52	0.59	↔	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	29	1.38	-	↘
24	尖圭コンジローム	12	0.44	0.29	↔	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	-	
25	淋菌感染症	29	1.07	1.17	↔	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

伝染性紅斑 急減（7月45件 8月22件）
麻疹 急減（7月23件 8月12件）

ヘルパンギーナ 急減（7月498件 8月302件）
無菌性髄膜炎 急減（7月129件 8月55件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症 発生なし

二類感染症 腸チフス 1件（広島地域保健所管内）

三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症） 9件発生

（呉市O26 1件，備北地域保健所管内O26 6件，福山市O157 1件，尾三地域保健所管内O157 1件）

全数把握四類感染症 10件発生（急性ウイルス性肝炎6件（A型1件，B型4件，C型1件），クロイツフェルト・ヤコブ病1件，ツツガムシ病1件，レジオネラ症2件）

3 一般情報

咽頭結膜熱（プール熱）（定点把握対象四類感染症）

8月は咽頭結膜熱の報告が124件ありました。（6月は78件，7月は90件）

例年，8月頃がピークとなっており，プールを介して流行的発生をみるため，「プール熱」と呼ばれています。5才以下の小児がよくかかります。

（原因）アデノウイルス3，4，7型

（症状）発熱（39 前後），咽頭痛，結膜炎が3主症状。約半数に角膜上皮混濁。2～3週間で治癒。潜伏期は3～5日。

（感染経路）接触感染，飛沫感染

（注意すること）家庭内ではタオルの共用を避ける。

アデノウイルスは熱に弱いので，タオルは煮沸消毒が有効。手洗いの励行など。

結膜炎が治った後も約1か月は便にウイルスが排出されるため，この間はプールの使用は要注意。

腸管出血性大腸菌（O157など）感染症の予防

8月末現在で，38の方が腸管出血性大腸菌感染症にかかっています。

昨年同期（75人）と比較して半減しており，幸い大部分の方が軽症です。

全国では，9月1日現在で，2,404件発生しています。

食品の保存や調理には十分気をつけましょう！